

令和2年の第1回定例会を終了しました。今議会は、新型コロナウイルスが国内外で感染したことで、市民の安心・安全を守るため市としての対応を質すことになりました。未だ終息が見えない状況であります。公明党仙台市議団として、2月25日に市長に新型コロナウイルス感染症対策に関する緊急要望を提出しました。

新年度は、本市にとって大変重要な年であります。市のまちづくりの10年の方向性を示す、仙台市総合計画2030の決定、都市計画マスタープランの決定、新庁舎基本構想確定、音楽ホール立地場所の決定など仙台の次の30年を

声をカタチに！
現場に飛び込む
行動派！
仙台市議会議員

鈴木ひろやす

The News Letter
2020.3.30
vol.68

発行 鈴木ひろやす事務所
Tel&Fax 022-242-0840
URL http://suzuki.sendai-komei.jp
E-mail suzuki-h@dot.hi-ho.ne.jp

みなさまからの「声」をお待ちしています。



ご挨拶

見据えた、計画、プロジェクトになります。私もそれらの議決するひとりとして、将来を見据えた議論をしっかりと行っていきます。

議会報告

代表質疑に立ちました。提案された議案及び、本市喫緊の課題等について質疑しました。また、令和2年度予算における予算等審査特別委員会において、新年度及び仙台市今後30年を見据えて、総合的に質疑しました。



代表質疑に立つ鈴木ひろやす

（議会質疑は代表質疑より抜粋）

【問】 今後も被災された方の心のケアやコミュニティ支援を継続していくことは欠かせません。国においては政府主催の追悼式が発災から丸10年となる来年までの方針が発表されましたが、震災を風化させない、また、震災により犠牲とならされた方々への哀

悼の意を示す場として本市としての開催は継続すべきであります。市長に伺います。

【答】 本市では、犠牲になられた方を悼むとともに、記憶をつなぎ、防災・減災への誓いを改めて胸に刻む、その場として、ご遺族の皆様方のお気持ちに寄り添いながら、今後も継続してまいりたいと考えております。

（今年新型コロナウイルス感染症の影響で追悼式は簡素化・縮小して行われました。）

【問】 新年度市長は、新たにスタートする「すこやか子育てプラン」のもと子ども育ちと子育て支援に取り組むとしていますが、新年度以降本市が子育てしやすい都市として選んでもらい、名実ともに「子育てするなら仙台市で」となるために限られた財源の中でどこに力を入れていく考えなのか伺います。

【答】 本市の子どもたちを取り巻く環境を見渡しますと、児童虐待や、また、育児不安の増加などの課題があつて、こうした課題に的確に対応していくとともに、子育てのよ

ろこびというのを実感していただける子育て支援施策のさらなる充実を図っていくことが必要不可欠だと、このように考えております。こうした認識のもと、新たな「すこやか子育てプラン」の推進にあたりましては、限られた財源の有効活用という視点も持ちながら必要な施策には思い切った予算の配分を行ったところでございます。

（途中省略）
また、子育てに係る情報発信の強化など、本市の子育て支援施策の効果を高めていく新たな取り組みも、積極的に推進してまいります。今後、こうした施策を着実に、かつ強力に押し進め、子どもが健やかに育ち、多くの方々に「仙台で子育てをして良かった」と実感していただけるまちづくりに全力を注いでまいります。

予算等審査特別委員会
総括質疑に立つ
鈴木ひろやす



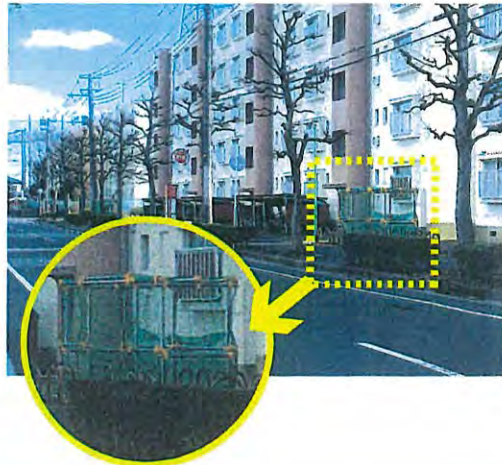
議会報告続き

【問】 防災グローバルプラットフォームフォーラムは世界各国の「仙台防災枠組」の実施状況や推進方策について意見交換を行うもので、世界各国の災害リスク被害軽減のための取り組みの成果と課題を共有し、今後の災害対策を総括するため、隔年で開催されています。次回は2022年を予定しているようであり、また、防災グローバルプラットフォームフォーラムの仙台市での開催を誘致してはいかがでしょうか。市長に伺います。

【答】 本市としてこれまでの経験、あるいはいろいろな取組みについて、世界に向けて発信をしていくといったことは非常に大事なことで、ということも考えております。今後、様々な国際会議の場において発表したり、これまでもおこなってきいているところでは、防災グローバルプラットフォーム・ジュネーブにおける開催が原則であるというふうな認識は、まず、本市におきまして、隔年で開催しております。そして、世界防災フォーラム、この環境都市としての情報発信にまず努めてまいりたいというふうに思います。

政務活動報告

西中田市営住宅 ゴミ集積場所改善



子どもたちの安全安心のために、路側にグリーン路面標示
(中田小学校区)



◆市民の声を聴き、行政に伝える市民と行政のパイプ役として、選ばれる議員の役目であり、その声を力夕チにすることが、住環境改善につながります。

新型コロナウイルス感染症 に関する緊急要望書提出



(2月25日)

要望項目は次の通り

- ① 「症状があれば自宅待機し、すぐ相談を」の徹底を図ること
- ② 重症化しやすい高齢者、障がい者、妊産婦などに配慮した対策を徹底すること
- ③ 相談窓口の周知徹底と改善
- ④ 感染が疑われる人がスムーズに検体検査できる体制を構築すること
- ⑤ 雇用調整助成金の支給緩和の周知徹底と活用の後押しを行うこと
- ⑥ 緊急性の高い物資の供給支援

◆新型コロナウイルス感染症が世界的に拡がる中で、市民対応を迅速に行うことと、正確な情報発信・提供をすること等を市長に緊急要望しました。

新型コロナウイルス感染症 に関する要望懇談



公明党井上副代表を交え、懇談的に各種団体より要望を伺った。
(3月13日)

◆市内及び県内の観光業をはじめとする中小企業、小規模事業者にもコロナウイルス感染症に伴う影響が出ていることを踏まえ、公明党宮城県本部として各種団体から現状での要望を伺った。
また、新型コロナウイルスに関する市内企業影響調査等も実施。

みなさまの声を
お聞かせください

